



使用画像：『鶯村画譜』（神戸大学附属図書館）
DOI : <https://doi.org/10.20730/100273658>

■トークセッション

古典籍画像で遊ぶ 古典籍の領域横断的活用のいまとこれから

■ワークショップ

うるわしのとわのふみ—ざっくりばらばら 古典籍—

染谷聡／漆作家×木越俊介氏／日本近世文学研究者

明治以前に日本でつくられた書物＝古典籍は、人間のあらゆる営みを内包する歴史的文化資源である。今日も世界中の機関や個人によって、古典籍の収集と研究が続けられており、神戸大学もまた、貴重な古典籍を積極的に収集し、活用に資するための環境整備を行う研究機関の一つである。

本催しでは、国文学研究資料館のプロジェクト「ないじえる芸術共創ラボ」のAIRとして活動された漆作家の染谷聡氏と、日本近世文学研究者として染谷氏の創作活動に伴走された木越俊介氏をお招きし、古典籍を使ったワークショップでうまれた化学反応についてお話しいただく。

催しの後半では、古典籍画像をコラージュした封筒をデザインし、漆でコーティングすることで、時間を閉じ込めたオリジナル封筒を作成するワークショップを行う。

※詳細は別添のPDFをご覧ください。

講師略歴

染谷聡／漆作家

京都市立芸術大学博士程修了 博士号（美術）取得。京都芸術大学、沖縄県立芸術大学非常勤講師。装飾を「人々の遊び心や情緒、記憶を表象する〈読み物〉」と捉え、主に漆の加飾に焦点をあてた作品制作や調査を行う。2015年京都市芸術新人賞受賞。国文学研究資料館のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）として活動（2021年4月～2023年3月）。

木越俊介

国文学研究資料館教授。日本近世文学、特に江戸時代の小説の研究を行う。著書に、『羈旅漫録 付 蓑笠雨談』（平凡社〈東洋文庫〉、2022年）、『知と奇でめぐる近世地誌』（平凡社、2023）等がある。

2023年11月17日（金）

13：20～16：40

※ワークショップ参加
希望者のみ QRコードより要申込



会場：神戸大学六甲台第二キャンパス（3限 | 人文科学図書館ラーニングcommons 4限 | 文学研究科視聴覚室）

主催：神戸大学人文学研究科・文学部（人文学推進インスティテュート）
共催：国文学研究資料館

問い合わせ先
樋口大祐

hdais041122[AT]port.kobe-u.ac.jp（※[AT]は@に変換）